



3学期「目標の実現を確かめ、互いのよさを認め合い、自信を深める」学期

「夢・絆・律を子どもたちに」

校長 岡部 良美

新年あけまして、おめでとうございます。平成29年の幕開けです。それぞれ夢や希望に胸躍らせている方が多いことと存じます。また一つ、子どもも大人も齡（よわい）を重ねます。より人間として成長していきたいものです。3学期は「仕上げる・かがやく」重要な学期です。1年間または小学校6年間の子どもの学びの仕上げを進めるとともに、子ども一人ひとりが輝き、自信をもって進級・進学できるように教職員一同全力で取り組んでまいります。

私は、この3学期において、子どもたちに『夢』・『絆』・『律』をしっかりと育てていきたいと考えています。

『夢』・・・子どもたちに、ぜひ夢を大いに語らせたいです。豊かさの時代が世界的な経済状況の変化、自然災害等により大きく崩れています。夢や希望がもてない若者や大人が増えています。しかし、日本人はかつてのいろいろな試練からも立ち上がり復興を遂げてきました。この苦難の時こそ、これからの日本や世界を担う子どもたちが夢をもち、新しいことを生み出していくチャンスなのです。夢をもつことが、自ら実現に向けて取り組む大きな力を生むと考えます。

『絆』・・・子どもたちに、学校生活の中で絆について実践を通して学び深めさせたいです。日本は自然災害の多い国です。しかしその地の復興の様子を見るたびに、人と人との絆、地域の絆の大切さや温かさ、心地よさを改めて感じています。学級の学習活動や生活を基盤に、1年生から6年生までの異年齢集団によるたてわり生活班の日々の活動があります。その中で人と人との絆を考えるチャンスがあります。安心して活動できる、互いに高め合えることを実感できると考えます。

『律』についてです。子どもたちに、自らを「律する」ことを意識して行動させたいです。「律する」とは、一定の規範や基準のもと、統制・管理すること、判断・処理することです。自らをコントロールすることです。学校は集団生活を営む上での、小さくても重要な学びの社会です。決まりもルールもあります。夢を実現させるためにも、絆を大切に生きるためにも、「律する」資質や能力をしっかりと身に付けることが重要です。どう行動すべきか、廊下を走るとどんな危険があるかなど、学習規律と生活規律を指導していきます。

子どもの成長を支えるためには、私たちが子どもの主張に耳を傾け、子どもの主張を具現化し、成功体験を積み重ね、自信をもたせていくことが重要です。その夢の将来を見据えて、今できる実現可能な目標に置き換え、今すべきこととして子どもに納得させ、身に付けさせることが重要です。北海道大学教授だったクラーク博士の「少年よ、大志を抱け」はあまりにも有名な言葉です。しかし、この名言には、その続きがあるのです。‘Boys, be, ambitious like this old man’（この老人のように、少年よ、大志を抱け）とクラーク博士は言ったのです。この老人とは、齡を重ねた経験豊富な人と読み取ることができます。新しい年が明けました。また一つ、私たちは経験豊富な人間になっていきたいものです。